一変した環境
焼山の道路改良

村道整備事業の一環として昭和四十六年度から二か年の継続事業で施工していた、焼山地内村道新設改良工事が村の直営工事のもとで、さる十二月二十五日地元住民の絶大な協力を得て完成しました。

事業費は約六四〇万円を要し、車両巾員六米、延長八五〇米の立派な道路です。この道路は、兼ねてから地区の生活環境の整備、産業振興の意味から待望されていたもので今後の地域発展に大きな役割を果たすことと思います。

改良された道路

改良前の道路

㊎㊎㊎ぎょう虫を追放しよう
☆明るく元気な新学期に☆

文化の進んだ現代で、私達の体に寄生虫がいるなどとても信じられません。横越村でも十年この方大変悪影響をおよぼしますかた寄生虫というと、疑ってみて、早期発見、早期治療が大切です。

ぎょう虫は、幼児の成長に寄生虫が、「ぎょう虫」という言葉は遠のき忘れられていました。

ところが今年二月の学校や保育園の集団検便で、近年にない多くの子供達が、「ぎょう虫」という寄生虫に感染していることがわかりました。

ぎょう虫は、お年よりから赤ちゃんまで広く感染し、家族の中に一人でも感染したものがいると、家族全員が感染するもので、特に学校や保育園等の集団生活をしているところは感染する割合が高くなっています。

よる床に入って体があたたまり、ヌクヌクしてくると、ぎょう虫の動きだす時間です。

ぎょう虫は腸を下って肛門のところに卵を産みにやってきます。その数は数限りなくおよそ一時間で全部卵を産んでしまいます。

ぎょう虫に感染するとどんな症状になるか

○子供が夜泣きする。
○夜よくねむらない。
○お尻に手をやる等で、なんの気なしにお尻をみると、白い糸くずのようなものがあります。これがぎょう虫です。その外に、
○おちつきがない。
○食欲がない。
○神経質、不眠症。
○学科の成績等がおちる。

等々で、特に乳幼児は知能指数にも影響を与えるともいわれています。

ぎょう虫に感染しないためには

○第一に清潔にすることが一番大切。
○下着類は清潔なものを身につけ、パンツ、くつ下は毎日とりかえる。
○敷布、ねまき（パジャマ）は、洗たくしたものを使う。
○天気のよい日は、窓を開け寝具は日光に当てる。
○用便後と、物を食べる前は必らず手をきれいに洗う。等、家族全員で実行して下さい。

治療は家族全員で

治療は感染したものだけでなく、家族全員がしなければ効果は挙がりません。家族で一人でも感染したものがいたら、すぐ医師に相談して薬をのんで下さい。

新学期が始まり一年生になった児童、保育園に初めていく幼児等は、夢と希望の多くある毎日となることでしょう。こうした子供達がより明るく、より健康に育つことをだれもが願っています。毎日を楽しく暮すために「ぎょう虫」といういやな言葉を一日もはやく追放するよう努力しましょう。

予防接種等の個人通知を廃止
―各戸に計画一覧表を配布―

予防接種が開始された昭和二十二年から今日までの二十五年間、定期又は任意のものであっても、その都度個人通知書を差しだしてきましたが年々新しく出てくる成人病その他非常に重大な対策事業が増大し、その中でも特に成人病予防や、母子健康対策等緊要なものがあり、これらをより推進する必要に迫られているため、五月から行なう各種予防接種等については、個人通知書を廃止し、これに替え「年間計画一覧表」を作り各家庭に配布することにいたしました。

今後各家庭では、配布された一覧表を見易い所へ貼っておき、該当者は日時、場所等を間違わないよう、又忘れることのないよう十分な注意とご理解をいただき、万全を期したいと願っています。

このほか毎月の広報に実施計画を掲載し、直前には有線放送でもお知らせする予定です。

予防接種の中の日本脳炎とインフルエンザは、従前どおり申込をとりますが、実施通知書はだしませんから、一覧表により該当者はそれぞれうけて下さい。

なお、四月実施の生ワクの接種は、今回に限り個人通知書をだしますが、以後は廃止いたしますからご了承願います。

4月保健衛生業務予定

月日	曜日	時間	実施内容	該当者（地区名）	場所
4. 9	月	午后 1.30～2.30	小児まひ生ワクチン投与	昭和47年2月1日～〃47年6月30日生 昭和47年7月1日～〃47年12月31日生	公民館（全村）
4.19	木	午后 1.30～2.00	乳児検診	昭和47年4月、9月 昭和48年1月生	公民館（全村）
4.25	水	午前 9.30～3.00	母親学級	妊娠届のあった者で未受講のもの	公民館（全村）

温室メロンにかける
"若い力"
藤山皆川君

市街化開発の波が急激におしよせている横越村は、農地等の高騰を招くとともに、農地の潰廃も多くみられ、離農や兼業化が進み若い農業者が激減している中で、農業にでっかい夢と希望を抱き、新しい農業に挑戦している青年がいる。

その青年は、藤山の皆川三四郎君（21才）である。

彼の家の経営規模では、農業としては到底一本立できず他産業への転向も考えたが、今まで学んできた農業の知識と、土への愛着がどうしても断ち切れず、役場、農協、普及所、あるいは、友達といろいろ相談した結果、地域的にみてこれからの農業は、集約的で、しかも高収益の期待できるものでなければということであった。それには何を選ぶべきか、いろいろ調査や研究もし何日も悩んだすえどうせやるなら、他人のやれないものと「高級温室メロン」の栽培を決心した。

温室メロンは、まだ県内にはほとんど普及されていないことと、価格も高く集約的農業としては最適と思えた。しかし、専門書を読んでもむつかしくて不安であったが、普及所や村と相談して思いきって半年間の県外留学をし、自分でやれるかどうか試してみることとした。

そして彼は、昭和四十六年度の新潟県県外農業留学生に選ばれ、静岡県の農家に半年間寄居し、栽培技術を身につけるとともに、出発当時の不安はなくなり、大きな自信をもって帰ってきた。その後早速経営計画の準備にとりくみ地目変更、資材の購入、近代化資金の借入等々むつかしい仕事を一切一人でやりこなし昨年十月には八〇坪の温室二棟、六〇坪のハウス一棟ができあがった。これの事業費が四百二十万円で近代化資金と父親の援助（借入）のすべて借金ということで出発した。

栽培計画としては、冬期間を除き年三回転出荷し、徐々に回転数を多くすると同時に品質の向上に努め年間総収入五百万円を目標としている。

冬期間は正月用切花としてチューリップを出荷する計画でさっそく今冬期間栽培を試みた結果、多少出荷がおくれたものの、予定どおり販売ができ大きな自信がわいた。

今、温室内では、皆川君が精魂こめて育てた六月出荷のメロンの苗が二十五センチ程にすくすくと成長している。

この栽培技術が定着し、立派な成果を挙げるには、いろいろ苦難な問題もあろうが、より研究を高めるとともに、一心に打込む若い情熱に期待している。

新潟職安の利用のために

新潟職業安定所は、新潟市亀田町、黒埼町、横越村を管轄し、所在地は新潟交通バスビルと万代橋の中間にあり、新潟駅より徒歩で十分位のところにあります。

国の仕事でありますので費用は無料であります。内部の仕事は、「事業所課」で求人の受理、失業保険の適用加入事務を行い、「職業紹介課」で一般の就職希望者、学校卒業生、訓練校修了生、身体障害者の就職あっ旋を行なっております。

なお一般の就職希望者の中で、以前に失業保険に加入しておられ会社、事業所を離職した場合、就職する迄の間、失業保険が受けられ、生活の安定をはかりながら就職することができます。

その他、パートタイマーの就職あっ旋も行なっております。

就職のことについて職業安定所では気軽に話し合いが出来るようにしております。求人コーナーですべての求人が展示されております。中高年コーナー、人材相談室、身体障害者コーナーを設置、各種雇用情報資料を作成展示して利用者の便をはかっております。就職のことで相談希望したい方は遠慮なく職業安定所におでかけください。

（新潟公共職業安定所）

新潟家裁の家事相談会開催

＊　＊　＊

日時　四月二十日（金）午前十時～三時まで

場所　亀田町公民館（無料秘密厳守）

夫婦間の悩みごと、男女間のもめごと、親子の問題相続、扶養、遺言その他、家庭内のいろいろな問題について、無料秘密厳守で相談に応じますから、お困りの方や、お聞きしたい方は遠慮なく気軽におでかけ下さい。

家庭の心配ごとは、早めに解決し明るい家庭生活を送りましょう。

なお、家事相談は新潟家庭裁判所（新潟市川岸町一丁目）において日曜、祭日を除き、毎日（土曜は正午まで）無料で相談に応じています。

◎大事故も小さなゆだんと違反から